

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

| 2014 | 3階展示室 | 2階展示室 | 地下1階展示室 | 1階ホール |
|------|---|---|---|---|
| 3 |  |  |  | 最新の情報は ホームページを ご覧ください。 |
| 4 | 没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮枝 3月4日(火)～5月6日(火・休) | ～黒部と槍～ 冠松次郎と穂刈三寿雄 3月4日(火)～5月6日(火・休) | ©International Center of Photography / Magnum Photos 101年目のロバート・キャパ 誰もがボブに憧れた 3月22日(土)～5月11日(日) |  |
| 5 |  |  | 第39回JPS展 5月17日(土)～6月1日(日) | 『山岳映画 特集上映』 -黎明期のドイツ映画から 日本映画の名作まで- 4月19日(土)～5月2日(金) |
| 6 | スピリチュアル・ワールド 5月13日(火)～7月13日(日) | 佐藤時啓 光-呼吸 そこにいる、そこにはいない 5月13日(火)～7月13日(日) |  | ※本誌に掲載のスケジュール・ 展覧会タイトル・関連イベント等 は予告なく変更される場合があ ります。最新の情報はホーム ページをご覧ください。 |
| 7 |  |  | 世界報道写真展2014 6月7日(土)～8月3日(日) | |
| 8 | 岡村昭彦写真展:生きること 死ぬこと(仮称) 7月19日(土)～9月23日(火・祝) | フィオナ・タン(仮称) 7月19日(土)～9月23日(火・祝) | ヤング・ポートフォリオ 8月9日(土)～8月24日(日) | |
| 9 | | | 写真新世紀東京展2014 8月30日(土)～9月21日(日) | |

ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日) ※ただし4月28日と5月5日は臨時開館
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

3展示をすべて鑑賞できる「セット券」、2展示を選べる「チョイス券」を販売しております。
詳しくはチケット売り場でおたずねください。

改修工事にもなう休館について

東京都写真美術館(館長:福原義春)は、2014年9月24日(水)より、館の大規模改修工事に伴い右記のとおり休館いたします。当館は1995年1月の総合開館以来、約20年間にわたり写真と映像専門の総合美術館として日本におけるセンター的役割を担ってまいりました。この度の改修工事で、経年劣化に伴う設備機器の更新等を行い、公共施設としてお客様により安心して快適な美術館へと生まれ変わります。長期にわたる休館となりますが、皆様の格別のご理解とご高配のほどお願い申し上げます。

【休館期間】

2014年9月24日(水) ≫ 2016年8月末(予定)

【恵比寿映像祭の開催について】

休館期間中も開催予定です。「第7回恵比寿映像祭」(2015年2月予定)の会場・内容等の詳細につきましては、2014年10月頃にご案内いたします。



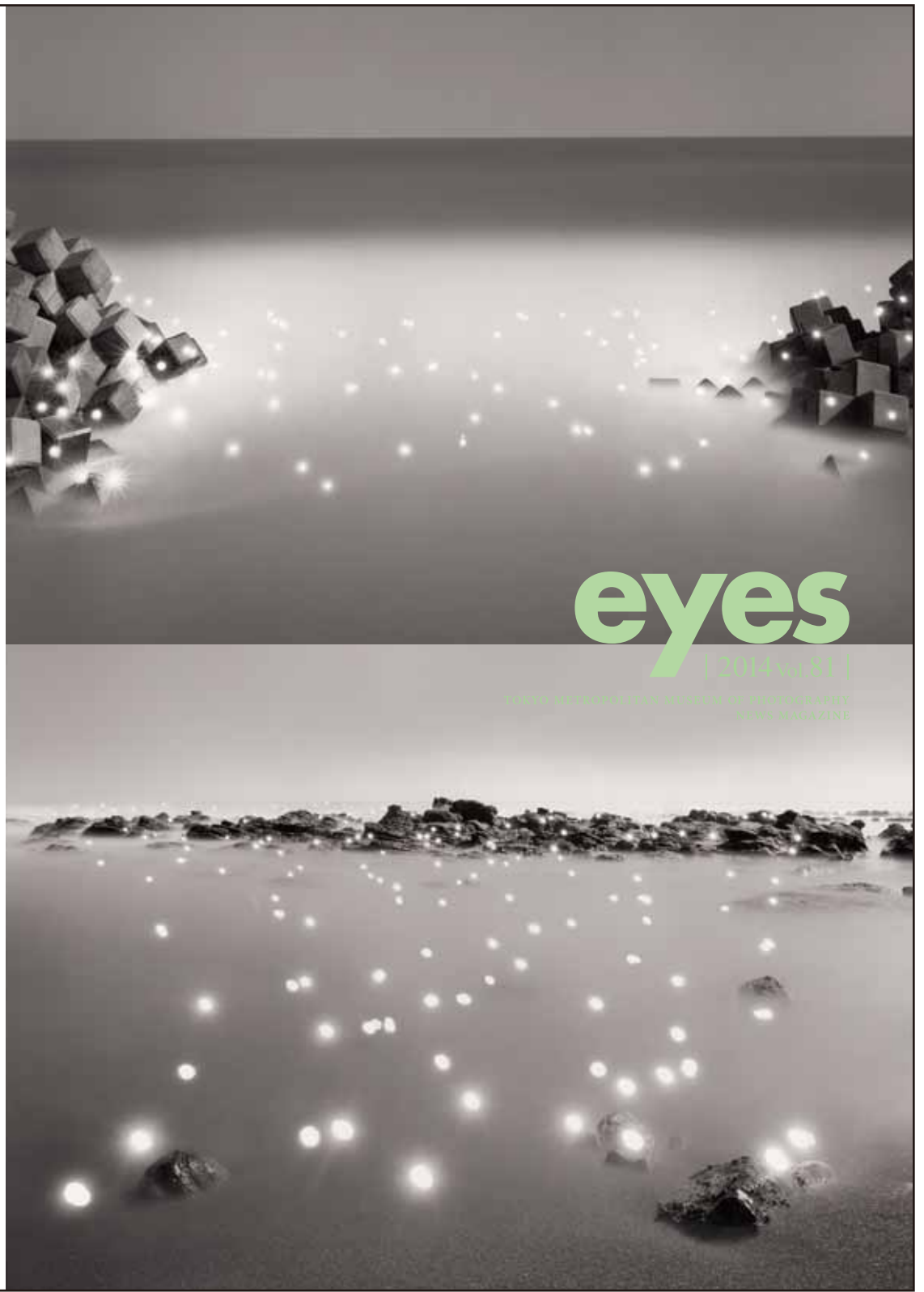
東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099
<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分 ※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

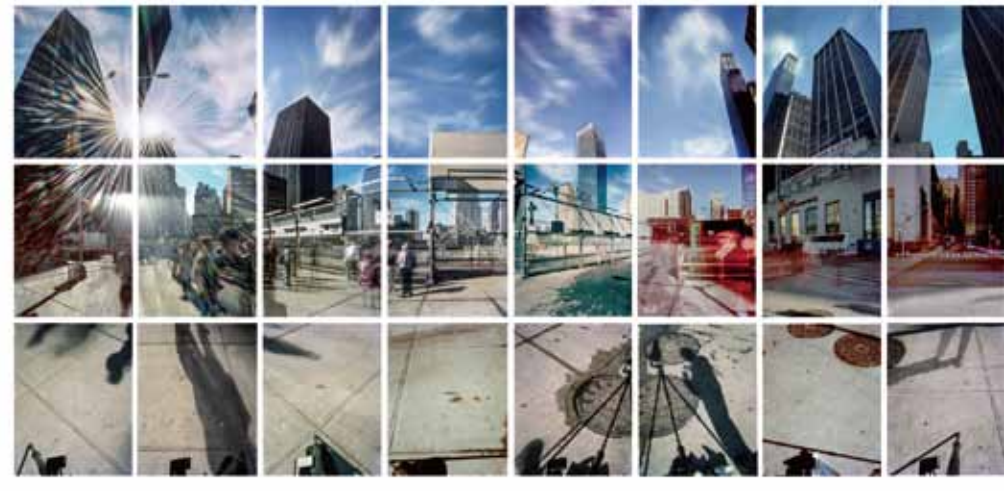
※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ14」81号 ●発行日：2014年3月20日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：JT印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2014 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



eyes
| 2014 Vol.81 |

THE INTERNATIONAL MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
NEWS MAGAZINE



The site シリーズ「Gleaning Light」より 2004年

TOPICS

佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはない

Sato Tokihiro: Presence or Absence

都市や海、木々のなかに浮かぶ光の点と線。佐藤時啓の「光一呼吸」シリーズは見る人を不思議な世界へと誘い込む。しかもこれらはすべて8×10の大判フィルムカメラで長時間シャッターを開け、作家自身が光を手を持って動くことで写し込まれたものだ。本展では、このほかに自作のピンホールカメラで撮影するなど、写真の原理への関心から生まれた代表作が並ぶ。「写る」ことの驚きに満ちた世界を追い続けてきた佐藤氏に、展覧会や作品についてお話をうかがった。

佐藤 時啓 <さとう ときひろ>

1957(昭和32)年、山形県酒田市生まれ。84年、東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。90年、第6回東川賞新人作家賞、第18回日本国際美術展で美術文化振興協会賞・いわき市立美術館賞・埼玉県立近代美術館賞の3賞を受賞。海外での評価も高く、93年の第1回アジア太平洋現代美術トリエンナーレ(プリズベン)をはじめ、第6回ハバナ・ピエンナーレ(97年)、第9回バングラデシュ・アジア・アートトリエンナーレ(99年)などに招待され「空間・時間・記憶」(95年)、「日本写真史展」(03年)などの国際巡回展やシカゴ美術館での個展(05年)など多数の展覧会に参加し出品している。

写真の原理にこだわる

佐藤さんの「光一呼吸」シリーズを見て、誰もが思うのが「どうやって撮ったんだろう?」ということだと思います。どのように撮影されているのでしょうか。

佐藤)夜、長時間シャッターを開けて、その間に僕自身がペンライトで光を発して、海の中や木の周りを動き回って撮影しています。日中の撮影ではレンズにフィルターをつけてシャッターを開ける時間を長くし、鏡を使って太陽光をカメラに向けています。

8×10という大判のフィルムカメラを使い、後から光を加えるなどの操作はしていないのです。CGだと思える人もいるかもしれませんが。佐藤)CGだと思った人からは「なぜ三角とか星形じゃないんですか?」と聞かれましたよ。そのときは「太陽が丸いからです」と答えていました(笑)。よく見てもらえばわかりますが、CGではない証拠に、丸い光の光のあたりがぜんぶ違うんですね。鏡を持った僕の位置と、太陽からの光の

角度で楕円になったりしています。

なるほど。最初は彫刻をやっていた、作品を記録するために写真を始めたとかがっています。なぜ写真で作品を作るようになったのでしょうか。

佐藤)モノを作るのが好きだったので彫刻を始めましたが、なぜ自分が作品を作るのかと思ったら、自分が生きているから。すごく単純なことなんです、生きるための表現なわけですね。そう考えたとき「生命」をテーマに作ろうと思い、生命の要素の一つとして「光」を彫刻で表現しようとしたんです。しかし、うまくいかなかった。ちょうどその当時、70年代後半から80年代にかけて、美術家が写真を使って作品を作るという動きがありました。もともと写真やカメラが好きでしたから、自分でも何かできないかと実験し始めたのがきっかけです。最初はドローイングの筆のようにペンライトを使ってみました。それがことのほかうまくいったのです。現像してネガに線が写っているのを見て感動しました。

ペンライトは佐藤さん自身が手にしてカメラの前を動き回る。でも長時間シャッターを開けているので佐藤さんの姿は消えてしまいます。光のゆらぎは光学的なゆらぎであると同時に、身体を動かすことによる生のゆらぎでもある。そのプロセスも重要ですね。

初期の頃からタイトルの呼吸という言葉にこだわってきました。それはまさに生のゆらぎを表現したかったからです。光そのものが写真に写ることの面白さに気が付いたからです。そして光によって写真がカメラの中でゆっくり生成していくことに参加していくような想像力や、また自



シリーズ「光一呼吸」より Shirakami#7 2008年



シリーズ「光一呼吸」より #284 Dojunkai apartment 1996年



Wandering Camera Project Kashiwazaki 2002年

身の身体が写らないことによって見えない世界にあらたな空間をつくるような喜びを感じていました。

細部を見てほしい

「Gleaning Light」という作品では、レンズを使わず、針穴を空けて撮影するピンホールカメラを使われていますね。

佐藤)長時間露光から始めているので、ピンホールにも最初から興味がありました。「Gleaning Light」は「拾い集める光」という意味なんです、最初に作ったのが、24個のピンホールカメラを球体にして360度撮影するというものでした。ほかには、8×10のフィルムを入れたピンホールカメラに穴を二つ空けて撮影した作品などがあります。同時にその頃、自動車で牽引できる「ワンダリングカメラ」というカメラ・オブスクラを自作して、全国あちこちに出発しています(笑)。

カメラ・オブスクラというのは真っ暗な部屋に針穴を空けると外の景色が倒立して映し出されるという現象を使った器機ですね。写真術が発明される前に画家たち



シリーズ「Digital Pinholes」より Akarenga 2011年 表紙上・表紙下) シリーズ「光一呼吸」より Hattachi 1996・1998年 ※表紙は部分



シリーズ「wandering camera2」より 2013年



シリーズ「Polaroid」より via Appia Antica 1991年

が使っていましたが、「ワンダリングカメラ」は中に人が入れるほど大きいとか。

佐藤) ええ。「ワンダリングカメラ」ではロールサイズの印画紙を床に置いて撮影し終わったら、中に入って画像を直接見てもらいます。この十年くらいはプリントだけではなく、町での活動などいろいろなことをやっていたんですが、今回はせっかく写真美術館での個展なので、プリント作品をお見せしたいと思っています。ちょうどいま技術の転換期なので、大学での研究成果を生かした最新のやり方で全てニュープリントを制作する予定です。

佐藤さんにとって写真で作品を作ることにどんな魅力がありますか。

佐藤) 彫刻でモノを作っていくと、付随していくものがどんどん増えていく。僕自身がやりすぎてしまうタイプなのでよくいそなんです。でも、写真はその過剰な部分をすばと切り落としてくれる。どんなに苦労しても残るのは表面がつるつるした一枚の紙。その潔さが気持ちいい。

切り落とされて残ったものから想像が広がりますね。たとえば、佐藤さんの作品には人間は写っていませんが、光一つ一つの痕跡はすべて佐藤さん自身の手によるもの。写っていないがたしかにそこに存在しています。「そこにいる、そこにいない」という今回の展覧会タイトルに結びつきますね。

佐藤) 写真は光学原理によって正しく写ります。しかしそれは人間の見ることに必ずしも一致しない。私の写真に写っている風景には実は長い時間の多くの出来事があったのです。でも写っていないこと、見えないこと、その部分にこそ実は私の表現したいものがあるのかもしれません。

どのようなことに気をつけて展示を見ていただきたいですか。

佐藤) 僕の作品はプリントサイズが大きいので引いて見る方が多いと思うんですが、ぜひ寄って見てほしいですね。細部までじっくり近くで見てもらえるように、展示は部屋を区切って迷路みたいになりたいと思っています。

(2014年2月 インタビュー 構成:タカザワケンジ)

2F 2階展示室 Exhibition Gallery 友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引 5月13日(四) → 7月13日(日)

佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにいない

Sato Tokihiro: Presence or Absence

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 □ 協賛:株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/エプソン販売株式会社/株式会社安井建築設計事務所/ライオン株式会社/清水建設株式会社/大日本印刷株式会社/損保ジャパン/日本興亜損保/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 □ 協力:株式会社カシマ/有限会社ワーカーズ

光・時間・空間・身体などをテーマに、ピンホール・カメラやカメラ・オブスキラ、長時間露光などを駆使して独創的な写真表現に取り組む佐藤時啓。代表作のひとつである《光一呼吸》シリーズでは、レンズの前に広がる風景の中を作家自身が鏡を持って歩き回り、鏡に反射する光と移動の軌跡をフィルムに定着。長時間露光によって捉えられた風景の中に点在する光が不思議な世界を創出し、この作家を比類なき存在として際立たせてい

ます。建築物や車などをカメラ装置に改造することで、時間の経過や移動によって変化する風景をパフォーマンス、インスタレーションとして発表するなど、様々な手法で自己のテーマを具現化してきました。本展ではプリント作品を中心に、《光一呼吸》シリーズや移動式カメラ・オブスキラによる最新作など、当館の新規収蔵作品も加えた約70点を展示。佐藤が初期から取り組み、培い、今もなお発展し続ける、表現のフィロソフィを追求します。

担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 14:00~ ※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

展覧会関連イベント ※詳細につきましては決定次ホームページでお知らせします。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月4日(火)→5月6日(火)休

黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 □後援:公益社団法人日本山岳会/黒部市/松本市 □特別協賛:大伸社 □協賛:ニコン/ニコンイメージングジャパン/ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 □協力:山と溪谷社



穂苅三寿雄《岩登り》1924-1941年 穂苅貞雄氏蔵

戦前日本屈指の登山家にして、多くの山岳写真と紀行文を残した“黒部の主”冠松次郎。そして、北アルプスの山小屋を拠点に、積雪期の槍ヶ岳など山岳写真の先駆的業績を残した穂苅三寿雄。本展は二人の山岳写真家の偉業を、134点のオリジナル・プリントや多彩な資料で検証するとともに、黒部渓谷、槍ヶ岳の美しい大自然に迫ります。

連続対談

「黒部を撮る・黒部に生きる」3月29日(土)14:00-15:30

□ゲスト:永田秀樹(「岳人」元編集長)、志水哲也(写真家)

「槍を撮る・槍に生きる」4月5日(土)14:00-15:30

□ゲスト:神長幹雄(「山と溪谷」元編集長)

穂苅康治(槍ヶ岳山荘グループ代表)

「山を見る・撮る・読む」4月12日(土)14:00-15:30

□ゲスト:大森久雄(編集者/実業之日本社・元出版部長)

水越武(写真家)

※要整理券。詳細につきましてはホームページをご覧ください。

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00~
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月4日(火)→5月6日(火)休

没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:東京都 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 □協賛:ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン/日本テレビ放送網 □協力:下田商工会議所

狩野董川門下の絵師にして日本の写真開祖の一人、下岡蓮杖。横浜で写真術を確立した蓮杖は、風俗、風景、肖像をモチーフに写真師として活躍し、日本写真文化の礎を築きあげました。本展は、口述筆記『写真事歴』(写真新報社)を軸に、280点の写真のほか絵画・工芸品などの実作品と資料により、蓮杖の生涯をひもときます。(4月7日(月)に展示替えを行います。)

担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日14:00~および4月28日(月)、29日(火・祝)、5月3日(土・祝)~6日(火・休)は16:00よりゴールデンウィーク特別フロアレクチャーを行います。

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

Guided Tours in English (英語フロアレクチャー)

Dates: Sunday April 6, 2 pm and Thursday May 1, 6 pm.
Free with purchase of regular exhibition admission.

パネルディスカッション「下岡蓮杖~作品とその生涯~」

□日時:4月13日(日)14:30-16:00 □会場:1階ホール

古典技法ワークショップ「デジタル写真を使った鶏卵紙プリントワークショップ」

□日時:[Aコース]4月19日(土)[Bコース]20日(日)※両日とも10:00-17:00
※要事前申込み。詳しくはホームページをご覧ください。



下岡蓮杖《梅の枝を活ける女性》文久3(1863)年-明治9(1876)年 鶏卵紙 東京都写真美術館蔵(4月8日より展示)

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビューSuicaカード割引

3月22日(日)→5月11日(日)

101年目のロバート・キャパ

誰もがボブに憧れた

Robert Capa, the 101st Year They All Adored Bob

□ 一般 1,100(880)円 □ 学生 900(720)円 □ 中高生・65歳以上 700(560)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:朝日新聞社 □共催:東京都写真美術館 □企画協力:東京富士美術館 □特別協力:マグナム・フォト東京支社
□後援:在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ日本/ハンガリー大使館 □協賛:野崎印刷紙業



左)ゲルダ・タロー フランス、パリ 1936年 International Center of Photography蔵 右)ツール・ド・フランス 1939年 東京富士美術館蔵



40年の短い生涯の中で、スペイン戦争など5つの戦場を描写した戦場カメラマンとして知られるロバート・キャパ(1913~1954)。しかし、約7万点ともいわれるキャパの作品の中には、同時代を生きた人びとや友人たちへの思いを込めて写されたカットが数多く存在します。本展は、キャパの真骨頂ともいえるユーモアや生きる喜びが表れた作品を中心に独自構成することで、今も多くの人を惹きつけてやまない彼の人間性をクローズアップ。さらに、編集者としてキャパの盟友であり続けたジョン・モリス氏へのインタビュー映像などを通じて、次の100年に向けた新たなロバート・キャパ像に迫ります。「伝説のカメラマン、キャパ」ではなく、幾度も挫折や失意を味わいながらも笑顔を忘れず、多くの友人と友情を深め、女性たちと恋に落ちながら、写真家人生に命を賭けた「ボブ(キャパの愛称)」の等身大の魅力をご覧ください。

前線に向かう前に、女性に別れを告げる共和国軍の兵士 スペイン、バルセロナ
1936年8月 東京富士美術館蔵

All photos©International Center of Photography / Magnum Photos



1



2



3



4

平成26年度東京都写真美術館コレクション展

スピリチュアル・ワールド

Collection Exhibition 2014: Spiritual World

3階展示室

2014年5月13日(火) - 7月13日(日)

日本では古来、森羅万象に「^{やおよろず}八百万の神」が宿るとする信仰をもち、目に見えないものや日常を超えたものの存在を感じとる感性、神仏を畏れ敬う意識、生きている者と死者の関わり合いを大切に
する死生観とともに人々は生きてきました。近代化の過程で失われていった非合理的なものの中には、日常生活や現代社会の価値観にはない未来への手がかりが隠されているのかもしれませんが。精神性(スピリチュアリティ)の領域へ。不可視のもの、超越的なものにむかって、感性のチャンネルを開いていくこと。「スピリチュアル・ワールド」には人を浄化し、活性化する力が秘められているはず。本展は30,000点を超える東京都写真美術館の豊富なコレクションの中からセレクトした写真作品と映像作品・資料によって、日本の宗教文化や民間信仰と視覚表現の接点をさぐるとともに、スピリチュアルな世界観を背景に独自のヴィジョンを追求してきた写真家／美術家たちの作品表現を紹介します。

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

一般 500(400) 円 / 学生 400(320) 円 /

中高生・65歳以上 250(200) 円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：東京都 東京都写真美術館 □協賛：凸版印刷株式会社



5



6



7



8



9



10



11

- 1) 三好耕三「湯船」より《恐山 青森》2012年 セラチン・シルバー・プリント
- 2) 日下部金兵衛「蒔絵アルバム・明治風景写真帖」より《京都伏見稲荷大社》明治中期 鶏卵紙に手彩色
- 3) 石川直樹《Mt. Fuji #28》2008年 発色現像方式印画
- 4) 石元泰博「伊勢神宮 平成5年(1993年) 第61回式年遷宮」より《内宮 正殿棟飾》1993年 セラチン・シルバー・プリント
- 5) 鈴木理策《山と海のあいだ14》2005年 発色現像方式印画
- 6) 藤原新也「全東洋写真・インド」より1979年 発色現像方式印画
- 7) 東松照明「太陽の鉛筆」より《西表島》1972年 セラチン・シルバー・プリント
- 8) 横尾忠則《皆は一人のために 一人は皆のために》1993年 テクナメーション
- 9) 内藤正敏「婆バクハツ!」より《お籠りする老婆 青森県・高山稲荷》1970年 セラチン・シルバー・プリント
- 10) 土門拳「古寺巡礼」より《法隆寺東院夢殿観音菩薩立像(救世観音)面相》1972年 銀色素漂白方式印画
- 11) 土田ヒロミ「続・俗神」より《伊勢神宮舞楽(八仙)三重・伊勢》1987年 インク・ジェット・プリント

出品作家

渡辺義雄、石元泰博、鈴木理策、山城知佳子、東松照明、土門拳、土田ヒロミ、石川直樹、内藤正敏、奈良原一高、藤原新也、横尾忠則、三好耕三 ほか

展覧会関連イベント

※詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。

担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 14:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

世界報道写真展2014

WORLD PRESS PHOTO 14

地下1階展示室

2014年6月7日(土) - 8月3日(日)



スポットニュースの部 単写真1位

フィリップ・ロベス、フランス、AFP通信社 2013年11月18日、フィリピン、トロサ市
台風30号の生存者達がレイテ島東部のトロサ市で祈りの行進をする。記録的なサイクロンとなった台風30号は、フィリピン中部を直撃し8千人の死者と行方不明者、400万人以上の避難民を出した。



スポーツ・アクションの部 単写真2位

アンジェイ・グリギエル、ポーランド、PAP(ポーランド通信社) 2013年3月24日、ポーランド、シュテルク市
ポーランド、シュテルク市で開催されたスキー回転の競技者。

主に昨年一年間に撮影された写真を対象とする「世界報道写真コンテスト」。今年も132の国と地域から5,754人のフォトグラファーが参加し、98,671点から大賞などの受賞作品が決まりました。受賞作品を紹介する「世界報道写真展2014」を6月7日から開催します。今年も9つの部門で53人が受賞しました。大賞は、米国のジョン・スタンマイヤー氏がジブチ共和国で出稼ぎ労働者の姿を撮影した作品です。アフリカからヨーロッパや中東に向かう労働者の通過地点であるジブチで、近隣のソマリアからの安価で微弱な携帯電話の電波を頼りに、祖国に残った家族となんとか連絡を取ろうとする彼らの切実な思いが見て取れます。技術の進歩で誰もが携帯電話を持てるようになった現在も、さまざまな理由から国を離れざるを得ない人々がいるという現実を突き付けられます。「一般ニュース」の部などでは、フィリピンのサイクロンの惨禍を示す写真も受賞しています。フィリップ・ロベス氏

(フランス)は台風30号の生存者たちが祈りの行進をする場面を捉えました。また、スポーツや自然、ポートレートなど幅広い分野の写真を紹介しているのも本展の魅力です。ブレント・スタートン氏(南アフリカ)はインドの先天性色素欠乏症の男の子たちを、アンジェイ・グリギエル氏(ポーランド)はスキー回転の選手を、またクリスチャン・ツィーグラール氏(ドイツ)は人間に最も近い動物と言われているボノボの生態に迫る写真を撮影、受賞しました。インターネットなどで世界がより近く感じられるようになった現在でも、我々の知れないことが各地で起きている—そんなことを気づかせてくれる作品が揃っています。約45の国と地域、100都市以上で1年を通じて開催される世界規模の写真展に、どうぞご来場ください。

❖ 展覧会関連イベントを予定しています。

※詳細は決定次第、ホームページで発表します。

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引

一般 800(640)円 / 学生 600(480)円 / 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催: 朝日新聞社 / 世界報道写真財団 □共催: 東京都写真美術館 □協賛: キヤノンマーケティングジャパン株式会社



世界報道写真大賞 / ジョン・スタンマイヤー、米国、VIIからナショナル・ジオグラフィック誌 2013年2月26日、ジブチ共和国、ジブチ市
夜、ジブチ市の海岸沿いで近隣国ソマリアからの安価な携帯電話の電波—国外にいる親戚との微弱な繋がり—を捉えようとするアフリカの出稼ぎ労働者たち。ジブチはソマリア、エチオピア、エリトリア等の国からより良い生活を求めてヨーロッパ、中東に向かう出稼ぎ労働者が集まる通過地だ。



自然の部 組写真3位

クリスチャン・ツィーグラール、ドイツ、ナショナル・ジオグラフィック誌 2011年1月25日、コンゴ

5歳のボノボは、コンゴ人民共和国にあるココロポリ・ボノボ指定保護地区近くで生息する野性ボノボの群集の中で最も好奇心が強い一匹だ。人間に最も近い動物であるにもかかわらず、ボノボや彼らが暮らす大自然での生態はあまり知られていない。ボノボは生息環境の減少や野生動物の取引という脅威に脅かされている。



演出肖像の部 単写真1位

ブレント・スタートン、南アフリカ、ゲッティ・イメージズによるルポルタージュ 2013年9月25日、インド西ベンガル州

目が不自由な人々のためのヴィヴェーカー・ナンドラ福祉学校の寄宿舎で撮影された、先天性色素欠乏症の男子たち。インドでは数少ない盲学校の一つである。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

7月19日(土) → 9月23日(火) 祝

フィオナ・タン (仮称)

Fiona Tan: Terminology

□ 一般 900(720)円 □ 学生 800(640)円 □ 中高生・65歳以上 700(560)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社 □協賛:東京都写真美術館支援会員 ほか

フィオナ・タンは、しばしば古い記録フィルムや写真を素材とし、ときにドキュメンタリーとフィクションとの間を往還しながら、集団や個人における文化的差異がいかに記録され、また人々の記憶に留められてきたかを繊細に問いかける作品で国際的な評価を得てきました。静止写真、フィルム、ビデオ、デジタルビデオといった異なるメディアを用いながら、常にその作品に通底しているのは、見るもの・見られるものが交錯する視線のポリティクス(政治性)や、表象することの不可能性を前にしたもどかしさ、そして、その不可能性を引き受けつつ、それでも映像だからこそ伝え得ることへの希求です。本展では、大きな注目を集めた2009年ヴェネチア・ビエンナーレ オランダ館出品作や、その後の作家の新たな展開を含めた新旧の代表作を通じて、写真と映像の本質に迫る問いを詩的かつ批評的に投げかけるフィオナ・タンの世界をご紹介します。

担当学芸員によるフロアレクチャー

第1・3金曜日 14:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

展覧会関連イベント

※詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。



《Inventory》2012(6チャンネルビデオ・インスタレーション)

フィオナ・タン Fiona Tan

Fiona Tan

1966年ブカンバル(インドネシア、スマトラ島)生まれ、現在はアムステルダム(オランダ)を拠点に活動。中国系インドネシア人の父とオーストラリア人の母をもち、オーストラリアで育つ。1988年よりアムステルダムに移住し、リートフェルトアカデミー、国立美術大学で学ぶ。横浜トリエンナーレ(2001、2005)、第8回イスタンブル・ビエンナーレ(2003)、ドクメンタ11(2007)、オランダ館の代表をつとめたヴェネチア・ビエンナーレ(2009)など多くの国際展に参加。東京都写真美術館においては、「第2回恵比寿映像祭 歌をさがして」(2010)で展示・上映両部門に出品している。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

7月19日(土) → 9月23日(火) 祝

岡村昭彦写真展:生きること死ぬことのすべて (仮称)

All about Life and Death-Photographs of AKIHIKO OKAMURA

□ 一般 600(480)円 □ 学生 500(400)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催:東京都 東京都写真美術館 □協力:岡村昭彦の会

岡村昭彦(1929-85)は、1964年6月12日号の『ライフ』に9ページにわたり掲載されたベトナム戦争の写真によってフォトジャーナリストとしてデビューを果たし、「キャバを継ぐ男」として一躍国際的に注目されました。65年には、南ベトナム解放民族戦線の取材に成功しますが、南ベトナム政府から5年間の入国禁止処分を受けてしまいます。ベトナムから切り離された失意の岡村は、ドミニカ、ハワイ、タヒチ、ニュージーランドなど環太平洋地域を取材し、68年に家族とともにアイルランドに移り住みます。北アイルランド紛争を取材するだけでなく、ベトナムの戦場に特殊部隊を送り込み核時代の実験戦争としたアイルランドのJ.F.ケネディ大統領のルーツを追ってのことでした。さらにそこを拠点に69年、日本人ジャーナリストとして最初にビアフラ戦争を取材。また入国禁止処分が解けた71年には、徹底した取材制限が行われた南ベトナム政府軍によるラオス侵攻作戦の失敗の実態を取材することに成功します。晩年はバイオエシックス(生命倫理)という言葉을掲げてホスピスの問題に取り組みました。岡村昭彦の軌跡は、われわれはどんな時代を生きているのかを鋭く問いかけ続けてきました。それは「日本」という枠組みを越えて、「世界史」のなかを日本人はいかに生きてゆくべきかを問いかけているといってもよいでしょう。本展



では、残された原板にまで遡って調査研究された成果をもとに、未発表の写真を中心に、あらたにプリントを制作して展示を構成します。そこにはこれまで言われてきたようなフォトジャーナリストという言葉ではくることができない、岡村昭彦の思想と感情の軌跡が掘り起こされています。その集大成からは、人間の精神がカメラのレンズを通して、世界をどのように認識したかがあざやかに浮かび上がってくるはずで

担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 16:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

展覧会関連イベント

※詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。



上)《左胸を打ち抜かれて倒れるビアフラ軍兵士、ビアフラ戦争》1969年

下)《裏切り者をかたどった人形を相手に遊ぶ子どもたち、プロテスタントのカトリックに対する勝利を祝うお祭り》1970年頃

